

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720322

研究課題名(和文) 将軍側近から見た徳川幕府の政治構造

研究課題名(英文) A study of political structure of the Tokugawa shogunate in terms of The Sokkin(shogunal intimates)

研究代表者

福留 真紀 (FUKUTOME, Maki)

長崎大学・教育学部・准教授

研究者番号：60549517

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、徳川将軍側近と幕府官僚組織の関係からみた、江戸時代の政治権力・構造を分析した。2014年が将軍側近である柳沢吉保の没後300年ということもあり、吉保についての新しい研究成果を、著書、講演などで社会的に発表する機会に多く恵まれた。また、江戸時代後期の将軍側近については、側用人の後、その職務を継続しつつ老中に就任したことから大きな政治権力を握っていたとされる田沼意次、水野忠友を中心に、その権力の実態を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed political power and structure of the Tokugawa shogunate in terms of a relationship between the Sokkin(shogunal intimates) and the structure of Tokugawa shogunate government officials.

2014 is the 300th anniversary of Yanagisawa Yoshiyasu's death. Therefore I have had many opportunities of publishing and making presentations on my study. I picked up several shogunal intimates focusing on Tanuma Okitugu and Mizuno Tadatomo in this study of the Sokkin in the later Edo period, who are considered to have taken big political power, because they had dual roles as the Sobayonin(agents of Tokugawa Shogun) and Roju(senior counselors).

研究分野：日本近世政治史

キーワード：徳川幕府 徳川将軍 将軍側近 幕府官僚 柳沢吉保 田沼意次 水野忠友

## 1. 研究開始当初の背景

私は、日本近世政治史を研究するにあたり、政治の主体・基盤である「人」に注目している。つまり、政治に関わる人々の個人事情・家族関係・姻戚関係という側面から、より政治権力の本質に近づくことができると考え、将軍との人間関係を基盤とする将軍側近という切り口から、江戸時代中期を中心に研究を進めてきた。

研究開始当初には、以上のような観点による研究成果として、2冊の著書を刊行していた。まず1つ目は、『徳川将軍側近の研究』(校倉書房、2006年)である。本書は、5代将軍徳川綱吉政権期を中心に8代吉宗までの時期、将軍側近の幕府の政治機構の中での位置を明らかにしたものである。

綱吉・6代家宣・吉宗は、前将軍の嫡子としてではなく、外からの将軍就任である。つまり彼らには、4代家綱政権期に確立したとされる徳川幕府の政治機構の中で、将軍自身が政治的手腕を発揮するためには、自らの側近が必要となるという共通する背景があった。その側近が、綱吉から7代家継までは「側用人」、吉宗では「御側御用取次」である。なお、家継については、家宣の嫡子だが、5歳から8歳までしか将軍職に就いていなかったため、先代家宣政権期の体制が継続していたと捉えられる。本書では、幕府史料だけでなく、大名家史料にまで分析の範囲を広げ、これまで見出されてこなかった史料を新たな観点から分析することにも努め、将軍側近が活躍した当時の職務の実態を詳細に明らかにした。

その結果、当該時期の将軍側近は、「側用人」「御側御用取次」という「役職」に任命されていたのではなく、将軍との人間的繋がりが成り立っており、権限は、あくまでも「奥向」と「裏(=根回しの政治構造)」に限られ、老中を筆頭とする官僚組織とは「裏」

において共存したが、「表向」にその権限を発揮することはできなかったことを解明した。

以上の研究から見出された官僚組織・将軍側近の双方が関わる「裏」には「大名・旗本の人間関係」が強く反映され、この本質を追究することが必須となった。その点を分析・解明したのが、『名門譜代大名・酒井忠挙の奮闘』(角川学芸出版、2009年)である。

本書は、江戸時代中期の前橋藩主酒井忠挙が、幕閣と取り交わした書状群を整理した「御老中方窺之留」(姫路市立城郭研究室所蔵)の分析を中心としている。忠挙は、4代家綱政権期の大老酒井忠清の嫡男であるが、父が次の綱吉政権で事実上失脚したため、家格が下がることになった。よって忠挙は、再び幕府政治の中核に関わるために、幕府に様々働きかけることが必要になった。加えて、名門の譜代大名である酒井家一門の長として、親族や交流のある大名・旗本から幕府への取り次ぎルートとして頼られる、という立場でもあった。その忠挙の人的ネットワークの中に、将軍側近柳沢吉保との姻戚関係があった。忠挙は吉保に、諸大名・旗本の家格維持や復活の指南を受けるばかりでなく、綱吉政権へ提言を行うなど、吉保を通して幕府へ様々に働きかけている。吉保にとっても、名門譜代大名の酒井家と姻戚関係を結ぶことで、新興大名の柳沢家に箔を付けることができるため、両者の関係は一方的なものではなかったといえる。忠挙にはほかに、老中をはじめとする要職者、公家、医者など、様々な人的ネットワークがあった。本書では、そのような人間関係の観点から、当該期の武士の社会の実像を、具体的に明らかにした。

また、将軍側近の全体像を理解するため、江戸時代後期の側近について、中期の側近像をより明確にするための比較対象という切り口から、分析をはじめていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、以上に示した、私の江戸時代中期を中心とした將軍側近研究を踏まえ、検討が不足している前期（初代將軍徳川家康から4代家綱まで）と、後期（9代家重以降の時期）の側近について詳細に分析する。あわせて、これまでの中期の側近の研究についても深化させる。

また、將軍側近との比較のため、官僚組織の筆頭である大老・老中の動きも分析する。

最終的に、江戸時代を通しての將軍側近と幕府官僚組織の関係からみた政治権力・構造を総括し、將軍側近研究の集大成とすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

初代將軍徳川家康～4代家綱の時期および、9代家重以降の時期における將軍側近を分析、および中期側近の研究を深化させるため、全国各地での幕府関係史料および大名家史料の調査を行う。

以上より、得られた成果を分析、総括する。

その研究成果は、著書、研究論文執筆および研究会報告により発表する。

年度ごとの史料調査の内容は、以下の通りである。

### (1)平成23年度

#### 江戸時代前期（初代家康～4代家綱）

「江戸幕府日記」類の調査。

島原市立図書館（長崎県）

明治大学博物館（東京都）

#### 中期（5代綱吉～8代吉宗）

以前からの研究・調査の整理。

#### 後期（田沼時代）

#### 田沼意次関係史料

独立行政法人国立公文書館内閣文庫（東京都）

「水野家文書」首都大学東京図書情報センター（東京都）

「老中借写日記」

松平乗賢日記、松平武元日記、西尾忠尚日記、板倉勝静日記、松平康福日記、松平康任日記、安藤信成日記、牧野貞長日記、阿部正倫日記、久世広明日記、松平輝延日記、酒井忠進日記、青山忠裕日記、牧野忠精日記、松平信明日記、土井利厚日記、阿部正精日記、大久保忠真日記、水野忠成日記、戸田氏教日記、松平乗寛日記、久世広周日記

#### 全時期

#### 幕府関係史料

独立行政法人国立公文書館内閣文庫・東京大学史料編纂所（東京都）

### (2)平成24年度

#### 中期

以前からの研究・調査の整理。

#### 後期

#### 田沼意次関係史料

名古屋大学・名古屋蓬左文庫（愛知県）  
早稲田大学図書館・東京大学史料編纂所（東京都）

#### 全時期

#### 幕府関係史料

独立行政法人国立公文書館内閣文庫・東京大学史料編纂所

### (3)平成25年度

#### 中期

以前からの研究・調査の整理。

#### 後期

「水野忠友日記」「水野忠成日記」

東京大学史料編纂所

#### 全時期

幕府関係史料  
独立行政法人国立公文書館内閣文庫・東京大  
学史料編纂所

#### (4)平成26年度

以上、3年間にわたる調査で、不十分な部  
分の再調査を行い、得られた成果を分析、総  
括する。

なお各年度で、研究会報告や講演(5.主  
な発表論文等〔学会発表〕)を行い、さらに  
それらの内容を市民向け講座(かねさは歴史  
の会・神奈川県横浜市)などで紹介した。

#### 4.研究成果

##### (1)江戸時代前期(初代家康～4代家綱)お よび後期(9代家重以降)の將軍側近の分析

前期については、明治大学博物館・島原図  
書館・独立行政法人国立公文書館所蔵の江戸  
幕府日記などの幕府関係史料の調査、分析を  
行った。

後期については、特に田沼時代を中心に研  
究を進めた。首都大学東京図書情報センター  
所蔵の当該期の老中日記、国立公文書館、東  
京大学史料編纂所、名古屋大学、名古屋市蓬  
左文庫所蔵の田沼意次関係史料の調査、分析  
を行った。

具体的な成果としては、田沼時代の將軍側  
近の在り方を「田村藍水・西湖日記」から分  
析し、研究報告を行った(学会発表(7))。また、田沼意次の権力の実態を「田沼主殿頭  
様江中御勝手通一件」を中心に分析し、交  
代寄合東高木家の家督相続を例に、具体的に  
明らかにした。これについては、2回の研究  
報告を行い(学会発表(5)(6))、研究論  
文も発表した(雑誌論文(3))。

ほかには、「水野忠友日記」「水野忠成日記」

(東京大学史料編纂所所蔵)および「水野家  
記録」(早稲田大学図書館所蔵)の分析を進  
め、田沼意次と同時代に活躍し、老中と奥向  
御用を兼任した水野忠友の職務の実態を解  
明し、学会発表をおこなった(学会発表(4))。

##### (2)江戸時代中期(5代綱吉～8代吉宗)將 軍側近の分析

###### 柳沢吉保とその周辺

2014年が、將軍側近である柳沢吉保の  
没後300年ということで、吉保についての  
新しい研究成果を、社会に対して発表する機  
会に恵まれた。

まず、平成21～22年度若手研究(研究  
活動スタート支援)「近世日本における將軍  
側近の総合的研究」の2年目から手掛けてい  
た、柳沢吉保の悪名がどのようにして作られ  
たかを明らかにした書籍の執筆を完了し、2  
011年5月に刊行した(図書(2))。

また、博物館で実施された吉保をテーマと  
した展示に関連する講演会の講師を複数務  
め、研究成果を社会に発信した(招待講演)。

山梨県立博物館で開催された「柳沢吉保と  
甲府城」展(2011年10月8日～11月  
28日)の関連シンポジウムにおいて講演を  
行い、シンポジウムのパネラーも務めた(学  
会発表(9))。加えて、同展示の図録に特別  
論考を執筆した(雑誌論文(4))。

岩手県立博物館で開催された「ふるさとは  
岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩  
主南部直政と生母靈松院」展(2014年6  
月28日～8月17日)関連の特別講演会では、柳沢吉保と同日に將軍側近に命じられた  
南部直政について、その職務の実態や人物像、  
吉保との関係などについて講演した(学会発  
表(2))。

川越市立博物館・同市立美術館で共同開催  
された「没後三〇〇年記念 柳澤吉保とその  
時代 柳沢文庫伝来の品々を中心に」展  
(2014年10月18日～12月1日)に

関連して、吉保の実像を明らかにする講演を行った(学会発表(1))。加えて、同展示の図録に論文を執筆した(雑誌論文(2))。

郡山城史跡・柳沢文庫保存会歴史講座においても、吉保の職務の実態や人物像を解明した成果を発表した(学会発表(3))。

ほかに、対馬藩主宗義方が元禄10年(1697)に柳沢吉保へ初めて対面する過程を具体的にみていくことにより、吉保の権力の一端を明らかにした研究論文を発表した(雑誌論文(1))。この論文については、研究分担者であった、平成22～25年度科学研究費 基盤研究 A「宗家文書を素材とした分散所在大名家史料群の総合的研究」(JSPS 科研費2242016、研究代表者：東京大学史料編纂所教授 鶴田啓)の研究成果の一部でもある。

#### 6代家宣から8代吉宗の時期の将軍側近

当該期に徳川幕府に儒学者として仕えた室鳩巢の手紙を多く含む「兼山秘策」を詳細に分析した。そこから見出される、将軍が替われば政治の表舞台を去るという性質を持つ将軍側近と、幕府官僚として役職のトップに居続ける老中とのせめぎあいに注目しながら、両者の関係性を具体的に解明した(図書(1))。

#### (3)総括と今後の展望

以上に示したように、本研究では、柳沢吉保の没後300年の影響もあり、特に江戸時代中期の将軍側近の研究を深化させ、社会にも発信するという成果を挙げることができた。前期、後期についても、当初の目的に従い、研究を進めてきたが、後期の成果は田沼時代に集中したことから、江戸時代全体を通しての将軍側近のあり方の集大成とするには、不十分なところが残った。

側用人と老中を兼務することにより「奥向」「裏」「表向」のすべての権限を網羅して

いたことから、特に注目した水野忠友や水野忠成については、視野を広げると、本研究で分析した老中日記や将軍側近の記録以外にも「よしの冊子」(松平定信が近習番水野為長に集めさせた市中の噂についての報告書)、「宇下一言」(松平定信著)、「公德弁」(水野忠成家臣著)なども分析の対象となり得ると考えられる。今後は、このような史料も含めより多様な観点からの分析に努め、研究を深化させていきたいと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

- (1) 福留真紀「対馬藩主宗義方と柳沢吉保」『長崎大学教育学部紀要 人文科学』通巻第81号(『長崎大学教育学部紀要』第1集)、2015年3月、1～13頁、査読無。
- (2) 福留真紀「川越城主時代の柳澤吉保」川越市立博物館企画展展示図録『没後三〇〇年記念 柳澤吉保とその時代 柳沢文庫伝来の品々を中心に』2014年10月、5～6頁、査読無。
- (3) 福留真紀「田沼意次郎の「中御勝手通」美濃衆東高木家の家督相続をめぐる」『古文書研究』第76号、2013年12月、62～78頁、査読有。
- (4) 福留真紀「柳沢吉保と綱吉政治」山梨県立博物館企画展展示図録『柳沢吉保と甲府城』2011年10月、122～125頁、査読無。

[学会発表](計9件)

- (1) 福留真紀「吉保の実像」川越市立博物館歴史講座(招待講演)、2014年11月8日、川越市立博物館(埼玉県川越市)。
- (2) 福留真紀「柳沢吉保と南部直政」岩手県

立博物館特別講演会（招待講演）、2014年8月2日、岩手県立博物館（岩手県盛岡市）。

(3)福留真紀「將軍側近 柳沢吉保」財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会歴史講座（招待講演）、2012年11月25日、やまと郡山城ホール（奈良県大和郡山市）。

(4)福留真紀「田沼時代の將軍側近 水野忠友研究序説」第2回幕藩研究会大会、2012年9月1日、学習院女子大学（東京都新宿区）。

(5)福留真紀「田沼意次邸の「中御勝手通」 美濃衆東高木家の事例から」岡山藩研究会 第20回総会、2012年7月21日、早稲田大学（東京都新宿区）。

(6)福留真紀「田沼意次 側用人・老中兼任の実態 美濃衆東高木貞歳の家督相続をめぐって」幕藩研究会、2012年6月16日、学習院女子大学（東京都新宿区）。

(7)福留真紀「將軍側近と殖産興業 田沼時代の人参政策」近世近代研究会、2012年3月10日上智大学（東京都千代田区）。

(8)福留真紀「將軍側近 柳沢吉保の眞実」憲法・政治学研究会、2011年11月27日、公益財団法人京都労働者総合会館ラポール京都（京都府京都市）。

(9)福留真紀「幕府政治における柳沢吉保」山梨県立博物館シンポジウム「柳沢吉保と甲府城」（招待講演）、2011年10月30日、山梨県総合教育センター（山梨県笛吹市）。

〔図書〕（計2件）

(1)福留真紀『將軍と側近 室鳩巢の手紙を読む』新潮社、2014年12月。全249頁。

(2)福留真紀『將軍側近 柳沢吉保 いかにして悪名は作られたか』新潮社、2011年5月。全205頁。

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

福留 真紀（FUKUTOME, Maki）  
長崎大学・教育学部・准教授  
研究者番号：60549517

### (2)研究分担者

なし

### (3)連携研究者

なし